MEETING REPORT

8th International Congress of Parasitologyに参加して

寄生虫研究部
奈良 武司

学会会場にて。左から筆者、筆者の妻、小島教授。

10月初旬から中旬にかけて、トルコ共和国のイズミールで開催された第8回国際寄生虫学会議に参加しました。

トルコ共和国はイスラム教の国で、イズミール空港から都市部へ入ると華奢な煉瓦積みの白い家が隙間なく立ち並び、あちらこちらにモスクの尖塔が見える、なんとも異国情緒あふれる国でした。この頃日本ではプロ野球セ・リーグの大決戦とアジア大会が行われていましたが、トルコは、こんな情報は一切入ってこない、遠い西アジアの国です。

この国際会議は四年に一度行われる、どちらかと言えばお祭りに近い学会です。世界各地から1,000を超える演題が集まり、セッションが極めて細分化されています。そのため、テーマを絞って研究発表を聞くには非常によい機会でした。また、同じテーマで研究をしている他国の研究者と細部にわたって討論できたことは大きな収穫でした。ただし、プログラムの組み方で、配慮に欠ける点もあり、例えば私の発表は住血吸虫症（重要熱帯病のうちのひとつ）のワクチンに関するものでしたが、どういう訳か「その他の寄生虫の遺伝学」というセッションに入っており、がっかりしました。また、お国柄というか、学会開催中でも古代遺跡巡りツアーがびっしりと組まれ（自由参加ではありますが）、私もプログラムと相談しながらツアーに参加、日本にいては感じ得ない歴史の深さを目の当たりにしました。学会主催のBanquetではベリーダンスが催されましたが、その席上で次回の国際寄生虫学会議が日本で開催されることが発表され、日本からの参加者は感激するとともに責任の重大さに身の引き締まる思いでした（1998年開催予定）。

実はトルコではこの当時爆弾テロが相次ぎ、帰国後二週間たった日の新聞に「イズミール中心部で爆弾テロ」の記事が出た時には背中が寒くなったのを憶えています。ともあれ無事に帰国、トルコという国の複雑さと、その魅力に出会うことができた学会でした。

最後に医科研国際交流基金からの援助及び研究部の御厚意により、学会に参加できたことを、この場を借りて深く感謝致します。

編集後記

年が改まって、No.5は1995年の第1号となりました。本号では、所長の年頭の挨拶を転載させて頂いたため、紙面の構成が通常と異なります。「Administration Office」の事務部の各部門の紹介は今回は休ませていただきましたが、次号では庶務掛からスタートします。また学友会セミナーの記録も次号でまとめて掲載する予定です。

慣れない編集係の仕事にもようやく少し慣れてきてペースがつかめてきたところです。まだまだ不十分な点が多少あろうかと考えておりますが、今後の改善のためにも皆様のご批判・ご意見をおよせ頂けますと、大変有り難いと考えております。宜しくお願い申し上げます。 (渡)

◎医科研NOW編集室／〒108 東京都港区白金台4-6-1 東京大学医科学研究所 ☎03-5449-5298
委員長：渡邊俊樹　委員：北　潔・菅野純夫・佐藤典治・井桁幹隆・仲澤　宏・藏野妙子・松木恵司